

DRUG

INFORMATION

2002 No. 7

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室（内線2834）

平成14年3月19日発行

目 次

長期投与の変更について

※ Drug Information は医学部ホームページの下記アドレスにて提供しています。

<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/index.htm>

長期投与の変更について

投薬時の長期投与については、従来まで「一部の薬剤を除き原則 1 回 14 日分を限度とする」との考え方に基づいてきましたが、2002 年 4 月 1 日より「内服薬・外用薬は一部の薬剤を除き投与制限を撤廃する、注射薬は一部の薬剤を除き原則 1 回 14 日分を限度とする」と変更となります。

今後、投与制限のある薬剤を下記に示しましたので、処方の際には注意して下さい。

投薬量は予見することができる必要期間に従ったものでなければならないこととし、厚生労働大臣が定める内服薬及び外用薬については 1 回 14 日分、30 日分、90 日分を限度とする。
注射薬については、厚生労働大臣の定める注射薬に 1 回 14 日分、30 日分又は 90 日分を限度に投与することが可能であり、その投与量は、症状の経過に応じたものでなければならない。

(保険医療機関及び保険医療養担当規則より抜粋 3 月 8 日官報告示)

厚生労働大臣が定める内服薬、外用薬（投与制限(1 回 14 日分)のある薬剤)

- ・新医薬品（薬価基準への収載の日以降 1 年を経過する日の属する月の末日まで）
- ・麻薬及び向精神薬取締法に規定する麻薬・向精神薬 — ただし、1 回 30 日分、90 日分投与可能な薬剤がある

(厚生労働省告示第 99 号より抜粋 3 月 18 日告示)

当院で採用(院外を含む)されている医薬品の 4 月 1 日以降の投与制限について

1 回 14 日分投与を限度とする麻薬

剤形	一般名	商品名
内服薬	アヘンチンキ	アヘンチンキ
	塩酸モルヒネ	塩酸モルヒネ末、水
	硫酸モルヒネ	MS コンチン錠
		カディアンカプセル
	リン酸コデイン	リン酸コデイン末、散、水
外用薬	塩酸モルヒネ	アンペック坐剤

1 回 14 日分投与を限度とする向精神薬

剤形	一般名	商品名
内服薬	アモバルビタール	イソミタール末
	エスタゾラム	ユーロジン錠
	塩酸フルラゼパム	ダルメートカプセル
	塩酸ペンタゾシン	ペンタジン錠
	クアゼパム	ドラール錠
	クロラゼブ酸二カリウム	メンドンカプセル
	酒石酸ゾルピデム	マイスリー錠
	トリアゾラム	ハルシオン錠
	バルビタール配合剤	カフコデ錠

1 回 14 日分投与を限度とする向精神薬(つづき)

剤形	一般名	商品名
内服薬	ハロキサゾラム	ソメリン錠
	フルニトラゼパム	サイレース錠
		ロヒプノール錠
	ブロチゾラム	レンドルミン錠
	ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠
	マジンドール	サノレックス錠
外用薬	ロルメタゼパム	エバミール錠
	塩酸ブプレノルフィン	レペタン坐剤
	ジアゼパム	ダイアップ坐剤
	フェノバルビタールナトリウム	ワコビタール坐剤

1 回 30 日分投与が可能な向精神薬

剤形	一般名	商品名
内服薬	アルプラゾラム	コンスタン錠
		ソラナックス錠
	塩酸メチルフェニデート	リタリン錠, 散
	オキサゾラム	セレナール錠
	クロキサゾラム	セパゾン錠, 散
	クロチアゼパム	リーゼ錠, 顆粒
	クロルジアゼポキシド	コントロール散
	フルジアゼパム	エリスパン錠
	ブロマゼパム	レキソタン錠, 細粒
	メダゼパム	レスミット錠
	ロフラゼブ酸エチル	メイラックス錠
	ロラゼパム	ワイパックス錠
	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤	ベゲタミン錠-A
	臭化メペンゾラート・フェノバルビタール配合剤	トランコロン P 錠

1 回 90 日分投与が可能な向精神薬

剤形	一般名	商品名
内服薬	クロナゼパム	ランドセン細粒
		リボトリール錠, 細粒
	クロバザム	マイスタン錠, 細粒
	ジアゼパム	セルシン錠, 散, シロップ
		ホリゾン錠
	ニトラゼパム	ベンザリン錠, 細粒
	フェノバルビタール	フェノバル錠, 散, エリキシル
	フェニトイン・フェノバルビタール配合剤	ヒダントール F 錠